

はこだてしおおふねいーいせき
函館市大船E遺跡 (登載番号 B-01-303)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：函館市大船町513-1, 513-2

調査主体：函館市教育委員会（調査担当者 吉田 力, 野村祐一）

調査実施：一般財団法人 道南歴史文化振興財団（調査担当者 荻野幸男）

調査期間：令和5年5月9日～令和5年5月26日

調査面積：130㎡（Ⅲ層），130㎡（Ⅴ層）

調査の概要

遺跡は、函館市南茅部地域の大船川から北西へ約600mの大船中村川と約800mの位置にある佐藤川に挟まれた、海岸段丘上に位置する。調査区の標高は約53～56mである（図2）。遺跡の東側は200mほど緩斜面が続いた後、急傾斜をなし更に50mほどで海岸に至る。西側は背後の丘陵へ続き、約3.5kmで泣面山（標高835m）へと繋がっている。遺跡の北側は佐藤川を挟んで大船J遺跡、南東の同じ段丘上にはそれぞれ小河川を挟んで大船G遺跡、大船I遺跡、大船H遺跡、史跡大船遺跡が位置している（図1）。

調査は、縄文時代前期～続縄文時代の遺物包含層であるⅢ層と、Ⅳ層（駒ヶ岳f・g火山灰）下位の縄文時代早期遺物包含層であるⅤ層について行った。

本遺跡は、令和4年度に1,630㎡の調査を実施し、調査報告書を刊行している。Ⅲ層調査では、竪穴建物跡7軒、土坑墓1基、土坑6基など縄文時代中期・後期を主体とする遺構を検出している。Ⅴ層調査では、早期中葉の爪形刺突列・貝殻文・沈線文・絡条体圧痕文が施された尖底土器が出土した。この調査で、調査区北西端の遺構が調査区外へ広がることが確認されたため、今年度130㎡について調査した。

遺構と遺物

Ⅲ層調査 遺構は、竪穴建物跡1軒（PD-7：昨年度一部を除き調査済み）、これとは別の竪穴（PD-4）構築時の掘り上げ土範囲（掘4）、柱穴状土坑2基（PH-19・20）、炭化したクリ子葉を主体とする炭化物範囲1ヵ所（炭化物集中2）を確認した。PD-7は、昨年度の調査で床面出土の炭化種実を試料に年代測定しており、4400±20yBPという数値が得られている。竪穴内から土器の出土はないが、今年度の調査で竪穴周辺からサイベ沢Ⅵ式土器（円筒上層C式相当）が一括で出土している。

遺物は、縄文時代中期・後期の土器を確認した。中期はサイベ沢Ⅵ式・Ⅶ式相当、後期は大津式である。石器類では、R・フレイク、敲石、石皿などが出土し、総数は236点である。

Ⅴ層調査 Ⅴ層の遺構は確認されなかった。遺物は、U・フレイク1点、礫1点の計2点が出土した。

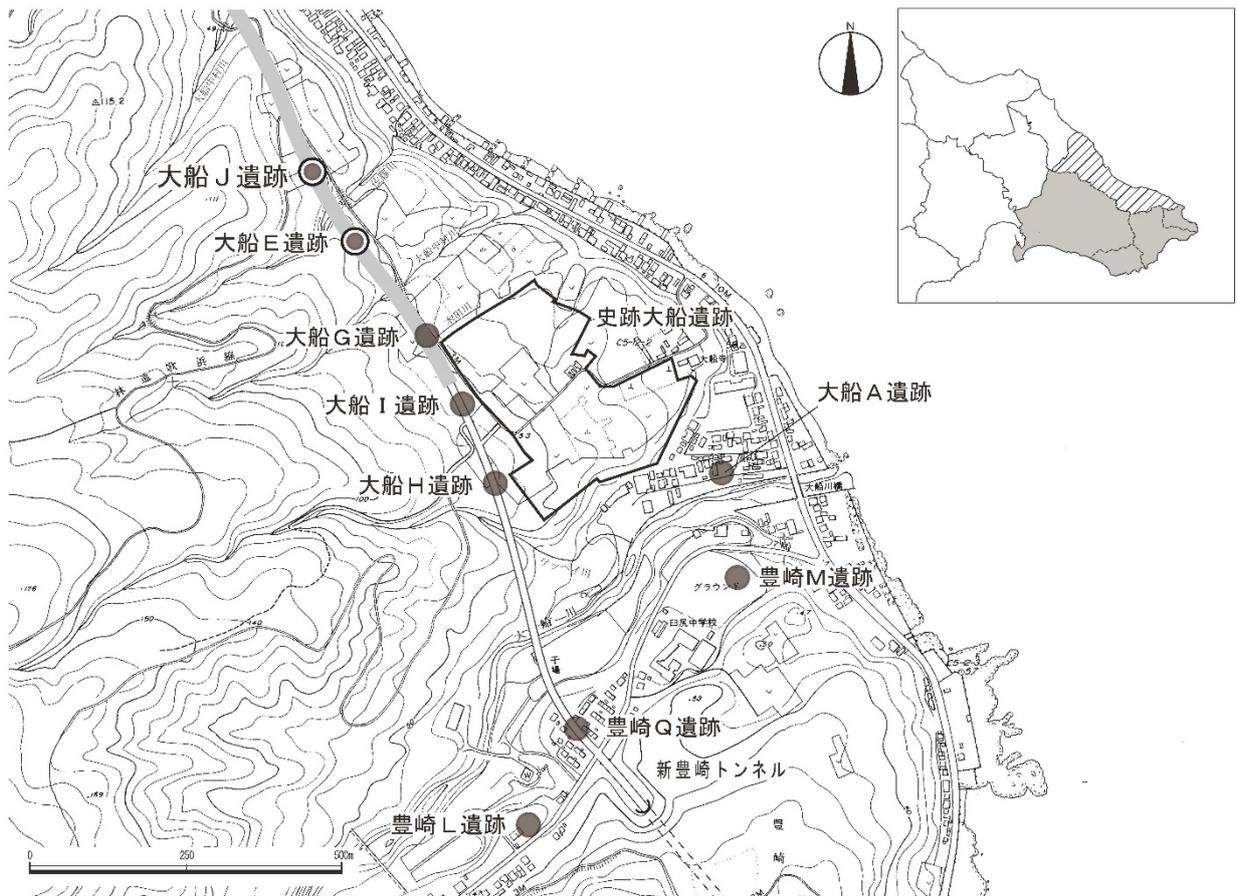


図1 遺跡の位置と周辺の遺跡

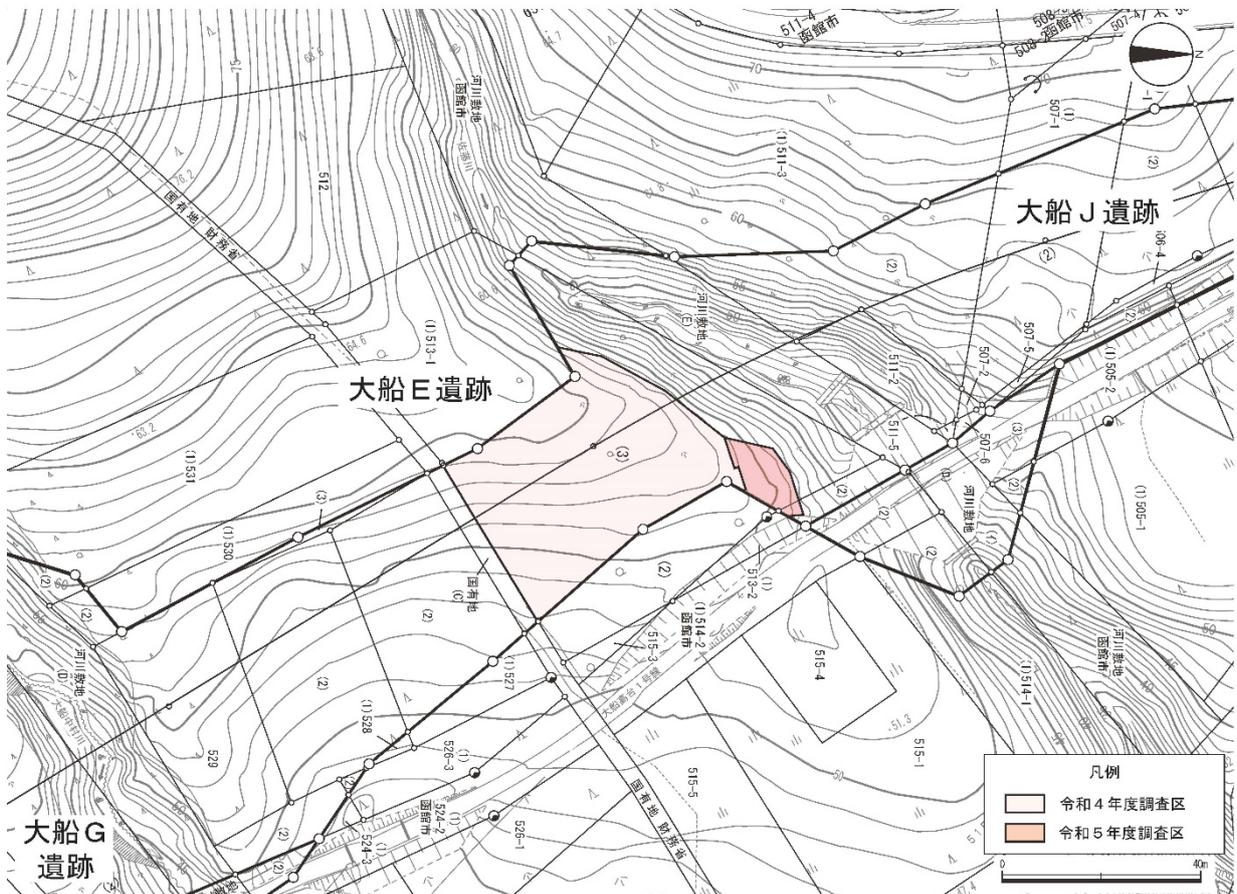


図2 調査区と周辺地形図



遺跡全景（北上空から）



Ⅲ層完掘（南東上空から）



竪穴建物跡 PD-7 完掘（北西から）



柱穴状土坑 PH-19 土層断面（東から）



柱穴状土坑 PH-20 完掘（東から）



炭化物集中2クリ子葉出土状況（北から）



Ⅲ層土器出土状況（縄文中期）



V層調査風景（南から）